

今日のトピック 底堅い金価格の動向

米国の金融政策と欧州の銀行問題が当面の焦点

ポイント1 ドル安の進行が下支え

6月下旬以降は持ち合い状態

■金価格は2013年以降の下落局面から今年に入り反発に転じています。9月27日の金価格は、年初来で約26%の上昇となっています。米国の利上げ期待の後退を受けて、ドル安が進行したことや、英国のEU（欧州連合）からの離脱選択により金融市場が不安定となる局面があったことなどから、金の安全資産としての見直し機運が高まったためと思われます。

■ただし、6月下旬の英国のEU離脱選択を受けた上昇の後には、金価格は持ち合い状態になっています。米国の金融政策を巡って、市場の見方が利上げと据え置きで定まらないことが背景と思われます。

ポイント2 円ベースの金価格は横ばい

ドルベースの上昇を円高が相殺

■円ベースの金価格は、概ねボックス圏での推移となっており、年初からの上昇率は約5%にとどまっています。ドルベースでの金価格の上昇を、円高の進行が相殺していることが要因です。これは、外国為替市場で、円が金と同様に安全資産として選好されているためです。

(ドル/トロイオンス) 【金価格とドル円レート】



(注) データは2006年1月～2016年9月（月次）。2016年9月は27日のデータ。右軸は逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(千円/トロイオンス) 【円ベースの金価格】



(注) データは2006年1月～2016年9月（月次）。2016年9月は27日のデータ。ドル建て金価格を月末の為替レートにて円価格に換算。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 米国の金融政策と欧州の銀行問題が当面の金価格のカギ

■金価格には、米ドルとの逆相関関係が高いという特性があります。すなわち、ドルが強ければ金は弱く、ドルが弱ければ金が強いの関係です。世界的な低金利の環境下、ETFによる金への投資需要が増加していることや、金の新規鉱山開発計画が乏しく、金の生産が増えないという需給環境も金価格好調の背景としてあげられます。

■今後の金価格は、米ドルの動き、すなわち米国の金融政策の影響を受けると考えられます。米国の利上げ速度は緩やかなものとなる見通しのため、金価格の大きな下押し要因にはならないと見られます。一方最近注目されるのは、ドイツの大手銀行の財務健全性の問題です。これが金融市場の不安定要素となれば、金価格には押し上げ要因となります。

ここも チェック!

2016年9月23日 米国の金融政策（2016年9月）政策金利は据え置き

2016年9月16日 BOEの金融政策（2016年9月）金融政策は据え置き、次回追加金融緩和か

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。